



令和8年3月31日

先端研究基盤刷新事業 (EPOCH) の公募を開始します ～全国の研究者が挑戦できる研究基盤への刷新～

第7期科学技術・イノベーション基本計画期間中に、我が国の研究基盤を刷新し、若手を含めた全国の研究者が挑戦できる魅力的な研究環境を実現するため、新たに「先端研究基盤刷新事業 (EPOCH)」を創設し、本日より公募を開始しました。

科学の再興を目指し、我が国の研究基盤の一翼を担う構想・計画が、全国の研究大学等から提案されることを期待します。

1. 事業の概要

我が国の研究力強化のためには、研究者が研究に専念できる時間の確保、研究パフォーマンスを最大限にする研究費の在り方、研究設備の充実など、研究環境の改善のための総合的な政策の強化が求められています。特に、研究体制を十分に整えることが難しい若手研究者にとってコアファシリティ^{*}による支援は極めて重要であり、欧米や中国に対して日本の研究環境の不十分さが指摘される要因となっています。加えて、近年、多様な科学分野におけるAIの活用 (AI for Science) が急速に進展する中、高品質な研究データを創出・活用するため、全国の研究者の研究設備等へのアクセスの確保や計測・分析等の基盤技術の維持は、経済・技術安全保障上も重要です。

「先端研究基盤刷新事業 (EPOCH)」は、第7期科学技術・イノベーション基本計画期間中に、我が国の研究基盤を刷新し、我が国の研究基盤を刷新し、若手を含めた魅力的な研究環境を実現するため、全国の研究大学等において、地域性や組織の強み・特色等も踏まえ、技術職員やURA等の人材を含めたコアファシリティを戦略的に整備します。あわせて、研究活動を支える研究設備等の海外依存や開発・導入の遅れが指摘される中、研究基盤・研究インフラのエコシステム形成に向けて、産業界や学会、資金配分機関 (FA) 等とも協働し、先端的な研究設備・機器の整備・共用・高度化を推進します。

※コアファシリティ

研究組織全体として研究設備・機器を整備・共用・高度化する仕組みを備えた研究基盤
【別添】先端研究基盤刷新事業 (EPOCH) の概要資料

2. 公募・審査のスケジュール

令和8年3月31日 (火)	公募開始
4月9日 (木)	公募説明会
5月20日 (水) 12時	公募締切
5月下旬～7月	審査
7月下旬	審査結果の通知・公表
8月中下旬	事業開始

3. 公募要領等

文部科学省の以下のホームページをご参照ください。

https://stg.mext.go.jp/b_menu/boshu/detail/mext_00518.html

なお、「先端研究基盤刷新事業(EPOCH)」では、文部科学省が公募する施設整備と国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の基金事業を一体的に推進することとしています。施設整備の申請に当たっては、JSTが公募を実施する先端研究基盤刷新事業(EPOCH)への申請も必要になりますので、JSTの公募要領についても必ず確認の上、申請をしてください。

<https://www.jst.go.jp/program/epoch/>

4. 支援対象等

対 象：研究大学等

採択件数：15件程度(①10件②5件)

事業期間：10年間

事業費：【①既存施設】約30億円※

【②施設新設】約20億円※ 施設整備：約20億円

※当初3年分をJSTを通じて実施

5. 公募説明会

オンラインによる公募説明会を下記日時にてJSTと共同で実施します。

日 時：令和8年4月9日(木)11時～12時

方 法：オンライン(ZOOMを利用します)

申し込み：以下のホームページをご覧ください、参加申込をしてください。

申込者宛にアクセス情報等をお知らせいたします。

<https://www.jst.go.jp/program/epoch/index.html>

上記申込フォームからの申し込みができない場合は、担当宛てに、電子メールで連絡ください。連絡にあたっては、メールの件名として「公募説明会申し込み」、本文に「所属組織及び所属部署名」、「担当者」、「電話番号」、「電子メールアドレス」を明記してください。



文科省 HP
(公募要領)



JST HP
(公募要領)

<担 当>

文部科学省 科学技術・学術政策局

参事官(研究環境担当)付

参 事 官：馬場 大輔(4330)

参事官補佐：高山 勇人(4389)

電 話：03-5253-4111 (代表)

03-6734-4340 (直通)

メールアドレス：epoch@mext.go.jp

先端研究基盤刷新事業 ～全国の研究者が挑戦できる研究基盤への刷新～

EPOCH: Empowering Research Platform for Outstanding Creativity & Harmonization

令和7年度補正予算額 530億円



背景・課題

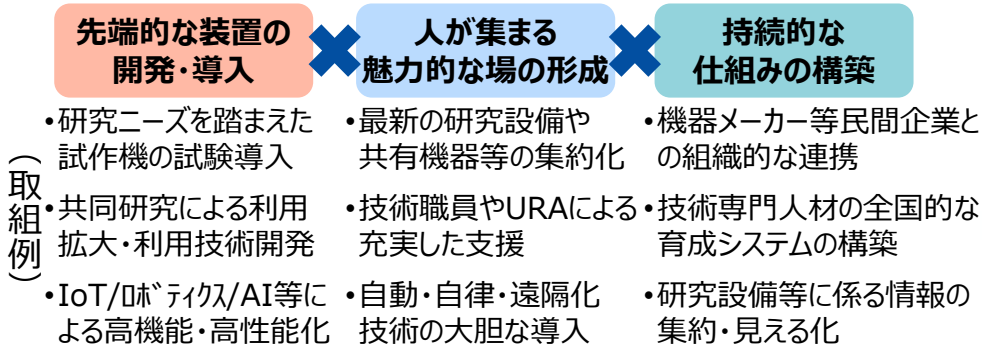
- ◆ 我が国の研究力強化のためには、研究者が研究に専念できる時間の確保、研究パフォーマンスを最大限にする研究費の在り方、研究設備の充実など、**研究環境の改善のための総合的な政策の強化**が求められている。特に、研究体制を十分に整えることが難しい若手研究者にとってコアファシリティによる支援は極めて重要であり、**欧米や中国に対して日本の研究環境の不十分さが指摘される要因**となっている。
- ◆ 加えて、近年、多様な科学分野におけるAIの活用(**AI for Science**)が急速に進展する中、高品質な研究データを創出・活用するため、**全国の研究者の研究設備等へのアクセスの確保**や**計測・分析等の基盤技術の維持**は、経済・技術安全保障上も重要である。

事業内容

- ◆ 第7期科学技術・イノベーション基本計画期間中に、我が国の研究基盤を刷新し、若手を含めた全国の研究者が挑戦できる魅力的な研究環境を実現するため、全国の研究大学等において、地域性や組織の強み・特色等も踏まえ、**技術職員やURA等の人材を含めたコアファシリティを戦略的に整備**する。
- ◆ あわせて、研究活動を支える研究設備等の海外依存や開発・導入の遅れが指摘される中、研究基盤・研究インフラのエコシステム形成に向けて、産業界や学会、資金配分機関(FA)等とも協働し、**先端的な研究設備・機器の整備・共用・高度化を推進**する。

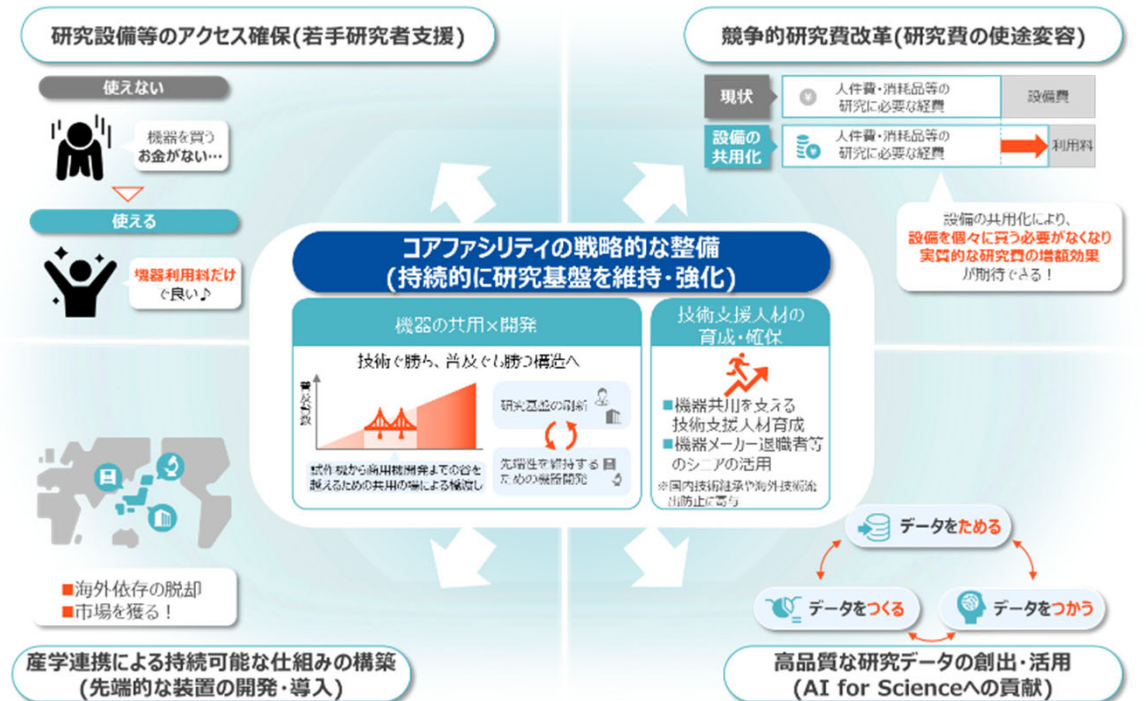
対 象：研究大学等
 採択件数：15件程度(①10件②5件)
 事業期間：10年間
 【①既存施設】事業費：約30億円※
 【②施設新設】事業費：約20億円※
 施設整備：約20億円
 ※当初3年分をJSTを通じて実施

研究の創造性と協働を促進し、新たな時代(Epoch)を切り拓く先導的な研究環境を実現



組織改革 (中核となる研究大学等の要件)

- ・組織全体としての共用の推進を行う組織(「統括部局」)の確立
- ・「戦略的設備整備・運用計画」に基づく持続的な設備整備・運用
- ・共用化を促進させる研究者や部局へのインセンティブの設計
- ・競争的研究費の使途の変容促進(設備の重複確認等)
- ・コアファシリティ・ネットワーク形成の主導と成果の検証 等



(担当：科学技術・学術政策局参事官(研究環境担当)付)